ハリウッド監督学入門

Foreign Filmmakers' Guide to Hollywood

ジョン・ウー、アン・リー、ギレルモ・デル・トロ。
ハリウッドで映画を撮ってきた外国人監督は数知れない。
ハリウッドで映画を撮るのと、他の国で映画を撮るのとは、どう違うのか？
『ザ・リング2』でハリウッド進出を果たした中田秀夫が、
自らの経験を基に撮りあげた傑作ドキュメンタリー。

監督：中田秀夫

Produced and Directed by HIDEO NAKATA

Interviewee WALTER PARKES, MICHELE WEISLER, ROY LEE, JULIEN THUAN, GABRIEL BERISTAIN, MICHAEL KNUE, HANS ZIMMER, JOE MENOSKY, TAKASHIGE ICHISE, TAKASHI SHIMIZU, BRIAN WITTEN, JONATHAN LIEBESMAN, MICHAEL PRICE, LANDEN RUDDEL, MIKE EPLEY, NOAH BEHAR, DORON MENNA

Camera and Line Producer JENNIFER FUKASAWA Edited by NAOKO AONO Sound Mixer KIYOSHI KAKIZAWA Sound Effect by KENJI SHIBASAKI Music by KENJI KAWAI

2008年／日本／デジタルビデオ／73分／カラー　製作：秀作工房　配給：ビターズ・エンド

世界一華やかな映画の都――ハリウッド。

これが、巨大マーケットならではの〝映画の作り方〟

「ほとんどの企画は、最低2年は企画開発期間だった。
『グラディエーター』も『マイノリティ・リポート』も。
『キャッチ・ミー・イフ・ユー・キャン』は脚本だけで3年半。
映画製作は非常に厳しい世界なんだ。
ひたすら忍耐強く、脚本を練り上げていかねばならない。」
――WALTER PARKES（元ドリームワークス製作最高責任者）

「すべては海外での興行収入や
数字やデータによって支配される。
何もかもがビジネス。
伝統的な企業ビジネスなの。」
――MICHELE WEISLER（プロデューサー）

ハリウッドでは一般的に、
脚本がない段階で"企画"が売買される。
脚本なしに企画が開発されて予算が使われて、
撮影前の準備まで始める場合もある。」
――JOE MENOSKY（脚本家）　（※本編より）

ハリウッドで映画を撮る監督は、タフでなければいけない。
"Greenlight（企画のGOサイン）"が点くまであきらめない強かさが必要なのだ。
中田秀夫監督は、現代版『フランソワ・トリュフォーのアメリカの夜』を撮った。
――秋元康さん（作詞家）

ハリウッド監督学入門

ジョン・ウー（香港/『M:I-2』）、アン・リー（台湾/『ブロークバック・マウンテン』）、クリストファー・ノーラン（英/『ダークナイト』）、ギレルモ・デル・トロ（メキシコ/『ヘルボーイ』）など、ハリウッドを支えているのは今や外国人監督であると言っても過言ではない。『リング』で世界中にジャパニーズ・ホラーブームを巻き起こし、ハリウッドで『ザ・リング2』に挑んだ中田秀夫監督は、製作から公開に至るまでに様々な疑問と壁にぶち当たる。撮影開始までの長い日々、驚異の撮影方法、度重なるモニター試写……巨大映画産業の地ハリウッドで映画を撮るとはどういうことか？　外国人がハリウッドで映画を撮る困難さとは？　元ドリームワークス製作最高責任者ウォルター・パークスや、『ライオン・キング』（94）でアカデミー作曲賞を受賞したハンス・ジマーなど様々なスタッフに中田秀夫がマイクを向け、証言を綴った貴重なドキュメンタリー。ハリウッド映画の裏側が明らかになると同時に、映画作りにとどまらない海外でのビジネスの極意も浮き彫りに！　映画を愛する全ての人々、モノを作る全ての人々、海外を目指す全ての人々、必見！

Foreign Filmmakers' Guide to Hollywood

世界を動かす一大ビジネス「ハリウッド映画」の謎に迫る！

『リング』『L change the WorLd』の中田秀夫監督による傑作ドキュメンタリー！

今やジャパニーズ・ホラーを代表する顔となった中田秀夫監督。そんな彼の"ライフワーク"とも言うべきジャンルがドキュメンタリーだ。独自の視点で対象をしっかりと見つめ、自身の想いと映画への愛をにじませた前作『ジョセフ・ロージー　四つの名を持つ男』（98）『サディスティック＆マゾヒスティック』（01）の2本はいずれも高い評価を受けている。待望のドキュメンタリー3作目となる本作はこれまで以上にドキュメンタリー作家・中田秀夫のテイストが反映され、『ロスト・イン・ラ・マンチャ』『ハート・オブ・ダークネス　コッポラの黙示録』につづく、映画をめぐるドキュメンタリーの傑作となった。

監督：中田秀夫
撮影・録音・ライン・プロデューサー：ジェニファー・フカサワ
編集：青野直子　整音：柿澤 潔　サウンド・エフェクト：柴崎憲治　音楽：川井憲次
2008年／日本／デジタルビデオ／73分／カラー
www.bitters.co.jp/hollywood　製作：秀作工房　配給：ビターズ・エンド

3月21日(土)、ハリウッド映画のウラ側を目撃せよ！

特別鑑賞券￥1,500（税込）絶賛発売中！（劇場及びチケットぴあにて）
★劇場窓口にてお求めの方にオリジナル・ポストカードをプレゼント！
当日一般￥1,800／学生￥1,500／小中高シニア・会員￥1,000（いずれも税込）

[シアター]
イメージフォーラム
自由席・定員入替制／整理券制
03-5766-0114
渋谷駅より徒歩8分、宮益坂上り先右手入る
13:00/15:00/17:00/19:00

www.imageforum.co.jp